広報かがみの 4
2015年4月号 第122号 毎月1日発行

シリーズ 第59回

埴輪が語るもの
―塚谷五輪の埴輪出土地―

古代人の墓「古墳」をイメージした時、まず思い浮かべるのは鍵穴の形をした前方後円墳だと思いますが、次に思い浮かぶのは、土で作った人や動物の形をした「ハニワ」ではないでしょうか。

ハニワは、古墳時代の三世紀後半から六世紀後半頃まで、古墳の上に立て並べられていた、素焼きで中が空洞の土製品で、「埴輪」と書きます。

鏡野町内には、およそ五〇〇基の古墳がありますが、埴輪が確認されている古墳はわずか数基しか存在しません。それらも古い記録は残っているものの、正式な発掘調査を経て出土したものではないので、長い年月の間に行方不明になっています。

そのような状況の中、唯一埴輪の実物が残されているのが、「塚谷五輪の埴輪出土地」（町指定史跡）から見つかった埴輪です。この地は、塚谷と馬場の境にあり、正式な所在地は馬場になりますが、地元では昔から塚谷五輪と呼ばれ、塚谷の人々によって保護されています。

この塚谷五輪では、過去の開墾の際に多数の埴輪が出土したといいます。しかし、その多くは、昭和三十二年（一九五七）に実施された鏡野町総合調査の歴史調査の中などで、大学や研究者によって持ち出されたといい、大部分が所在不明ですが、破片の一部が岡山県立博物館に所蔵されています。

塚谷五輪の埴輪散布地（馬場）

塚谷五輪出土の埴輪（鏡野郷土博物館）

破片は、円筒埴輪と人物埴輪があります。円筒埴輪とは、筒形の土管のような形状に、透かし穴や突帯を巡らせたもので、元は壺をのせる器台であったものが形骸化した、埴輪の中では最も多く作られた種類のものです。

一方、人物埴輪の破片は、形状のわかるものが腕と足のみですが、手の部分には、手を守る防具の籠手がつけられ、足には靴を履いています。顔や胴体の部分はありませんが、籠手と靴を身に着ける人物といえば、おそらくよろいを身に着けた身分の高い武人の埴輪であったと思われます。

塚谷五輪は、こうした埴輪が多く出土していることから、本来はこの丘陵上に古墳が存在し、過去の開墾等によって地形が改変された際に古墳が破壊されたと思われますが、その古墳の規模や形状は定かではありません。埴輪の製造場所だという説もありますが、埴輪を焼く窯跡の痕跡や灰・焼土といった遺構・遺物も存在しないことから、その可能性は低いでしょう。

手（左）と足（右）の部分

しかし、鏡野町域のみならず、津山盆地を見渡しても埴輪をもつ古墳はそれほどありませんので、塚谷五輪に存在したと思われる古墳の被葬者は、地域の中でも特別な地位にあった者であることが想像できます。

また、人物埴輪自体も当時の人物のリアルな姿を造形しており、籠手や靴の縫い目など表現が細部にこだわっていますので、この時代の人々の服飾を知る上でも大変貴重な資料です。

塚谷五輪の埴輪出土地は、現在小さなほこらが祀られていますが、私有地ですので見学の際にはくれぐれもマナーを守って下さい。

円筒埴輪と人物埴輪片は、県立博物館から借用し、鏡野郷土博物館（ペスタロッチ館二階）で常時展示しています。

参考資料：『鏡野町史』考古資料編、『小田の文化誌』、『小田の村誌』

生涯学習課　日下
電話（0868）54-7733

〒708-0392 岡山県苫田郡鏡野町竹田660 鏡野町くらし安全課 TEL0868-54-2780
【鏡野町のホームページアドレス】http://www.town.kagamino.lg.jp/